

経済マンスリー

[原油]

原油市場を取り巻く環境（12月）

1. 原油価格の推移

12月の原油価格は、月初の OPEC プラス^(注) 閣僚級会合等による減産幅拡大決定（後述）を受け、59 ドル台（WTI 期近物 1 バレル当たり、以下同）まで上昇した。その後、米中通商協議が第 1 段階の合意に達したとの発表があり、原油需要を左右する世界経済の先行きに対する警戒感が後退したことや、米ダウ工業株 30 種平均が連日史上最高値を更新するなど世界的な市場のリスクオンの流れが原油市場にも波及したこと等を背景に、更に上昇し、足元では 61 ドル台で推移している。

（注）石油輸出国機構（OPEC）及び、ロシアなど協調減産に協力する非 OPEC 産油国

2. 需給の動向

（1）需要

世界経済の緩やかな拡大が原油需要を下支えしており、7-9 月期の実績は前年比+0.9%、10-12 月期の見込み（当行概算値）は同+1.9%と、増加基調が続いている。

（2）供給

原油供給は、OPEC プラスが原油価格下支えを目的に実施している需給均衡のための減産分を米国シェールオイルの増産分が幾分上回るなかで減少幅が縮小する傾向にあり、7-9 月期の実績は前年比▲1.2%、10-12 月期は同▲0.5%（当行概算値）の見込みとなっている。

米国シェールオイルに関しては、7 週連続で減少が続いていたリグ稼働数が、12 月に入り増加に転じたほか、DUC 井戸（掘削済であるが水圧破砕等の仕上げ工程が未完成の井戸）を最終破砕することで、生産量が増加している。

他方、OPEC 諸国をみると、11 月の減産順守率はサウジアラビアの自主的な減産目標超過達成を主因に 154%と 100%を大きく超えており、抑制された生産水準で推移している。

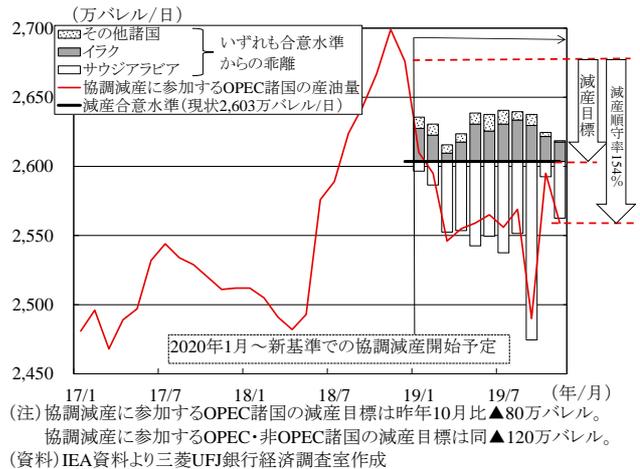
3. 今月のトピックス

今月 5-6 日に開催された OPEC 総会及び OPEC プラス閣僚級会合では、2020 年 1 月以降の協調減産幅（2018 年 10 月の生産実績からの減産幅）を現行の 120 万バレル（日量、以下同）から 170 万バレルに拡大する決定がなされた。同時にサウジアラビアは減産幅の自主的な上積み継続（40 万バレル）を表明したことから、実質的な OPEC プラスの減産量は 210 万バレル程度となる。これを OPEC プラスの 11 月の減産量実績（計 150 万バレル程度）と比較した場合は、サウジアラビアが 11 月比+20 万バレル、同国以外の OPEC 諸国が同+15 万バレル、非 OPEC 諸国が同+25 万バレルの追加減産が必要という計算となる。2020 年 3 月 5-6 日の OPEC プラス閣僚級会合等では、協調減産の延長是非が判断されるが、まずは今回の追加減産の合意が順守されるかどうか焦点となろう。

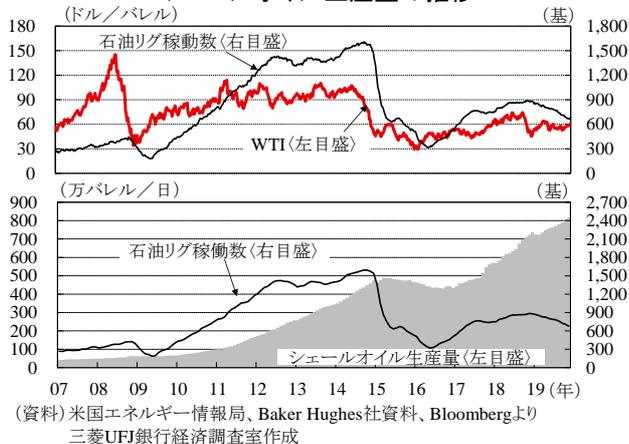
原油価格 (WTI期近物)と世界の需給バランスの推移



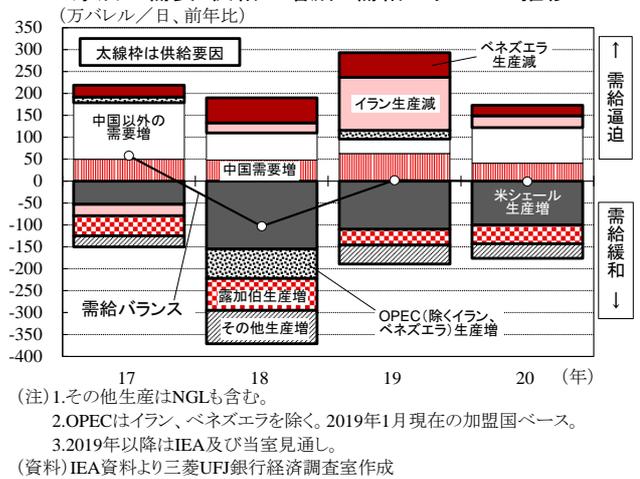
協調減産に参加するOPEC諸国の産油量の推移



原油価格と米国の石油リグ稼働数及びシェールオイル生産量の推移



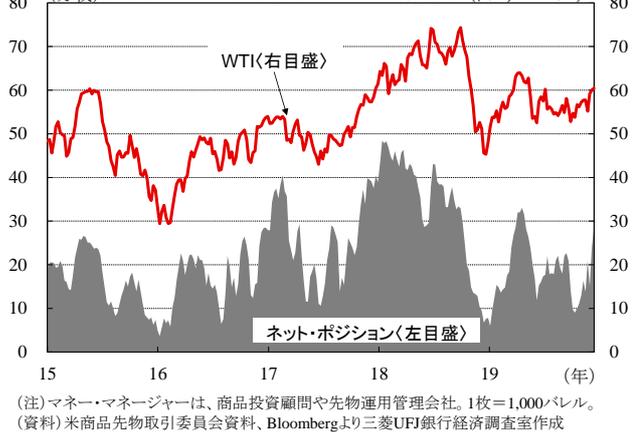
原油の需要・供給の増減と需給バランスの推移



原油価格と米ドル実効為替相場の推移



原油価格と投機筋(マネー・マネージャー)のネット・ポジションの推移



照会先：三菱UFJ銀行 経済調査室 廣中 愛弓 ayumi_hironaka@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませ、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。